

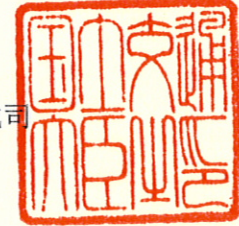


認 定 書

国住指第 3718 号
平成 22 年 6 月 25 日

因幡電機産業株式会社
代表取締役社長 守谷承弘 様

国土交通大臣 前原 誠司



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ [防火区画貫通部 1 時間遮炎性能] の規定に適合するものであることを認める。

記

4. 認定番号
PS060WL-0494
5. 認定をした構造方法等の名称
ケーブル・合成樹脂製可とう電線管／耐熱シール材／シリコーン系シーリング材充てん／壁耐火構造／貫通部分
6. 認定をした構造方法等の内容
別添のとおり

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

ケーブル・合成樹脂製可とう電線管／耐熱シール材／シリコン系シーリング材充てん／壁耐火構造／貫通部分

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造	
開口部	鋼製ボックス側	形状：矩形
		面積：0.024m ² 以下(240×100以下)
	ケーブル側	形状：円形
		面積：0.0017m ² 以下(φ47以下)
占積率 (鋼製ボックス側開口に対するケーブル断面積の総合計の割合)	合成樹脂製可とう電線管なし ：34.9%以下(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 合成樹脂製可とう電線管なし ：32.2%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
占積率 (ケーブル側開口に対する合成樹脂製可とう電線管断面積の総合計の割合)	60.3%以下(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 45.8%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
占積率 (ケーブル側合成樹脂製可とう電線管に対するケーブル断面積の総合計の割合)	52.9%以下(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 59.8%以下(鋼製ボックスが1、2個用の場合)	
貫通する壁の構造等	<p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 建築基準法第2条第七号の規定に基づき、国土交通大臣が指定もしくは認定した耐火構造(60分)の壁(ただし、木製下地及び有機系断熱材を壁内に充てんしている構造は除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合) <p>(2) 中空壁(ただし、木製下地及び有機系断熱材を壁内に充てんしている構造は除く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合) ・構成 両面強化せっこうボード厚さ12.5以上重張 <p>(3) コンクリート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁厚 115以上(鋼製ボックスが3～5個用の場合) 100以上(鋼製ボックスが1、2個用の場合) 	

(別添-1)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
電線管付ケーブル	<p>合成樹脂製可とう電線管</p> <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <p>合成樹脂製可とう電線管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS C 8411 ・呼び径 28 以下 ・外径 $36.5_{+0.50}$ 以下 ・厚さ $2.00_{+0.40}$ 以下 ・本数 4 以下 ・材質 <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) ポリエチレン 2) 架橋ポリエチレン <p>(2) 壁内のみあり</p> <p>合成樹脂製可とう電線管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS C 8411 ・呼び径 28 以下 ・外径 $36.5_{+0.50}$ 以下 ・厚さ $2.00_{+0.40}$ 以下 ・本数 4 以下 ・材質 <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) ポリエチレン 2) 架橋ポリエチレン <p>(3) なし (RC 除く)</p>

項目	申請構造
電線管付ケーブル	ケーブル
	<p>[1] 総発熱量 37, 857kJ/m 以下 (鋼製ボックスが 3~5 個用の場合) 12, 005kJ/m 以下 (鋼製ボックスが 1、2 個用の場合)</p> <p>[2] 総導体断面積 0. 0001m² 以下</p> <p>[3] ケーブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外 径 1)、2) のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 円形 11.0 以下 (仕上り外径) 2) 平形 断面積 95mm² 以下 ・導体断面積 22mm² 以下 (1 本あたり) ・導体種類 1)、2) のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 銅 2) ガラス繊維 (光ファイバケーブル) ・絶 縁 体 1)~3) のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ポリエチレン系樹脂 2) 塩化ビニル系樹脂 3) ゴム系樹脂 ・シ ー ス 1)~3) のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) ポリエチレン系樹脂 2) 塩化ビニル系樹脂 3) ゴム系樹脂 ・介 在 物 1)~4) のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) 紙 2) ジュート 3) ポリプロピレン 4) なし ・本 数 総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下且つ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下 ・規 格 次の規格のうち、いずれか一仕様とする JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠, 3612, 6850 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号準拠, 第 4364 号準拠, 第 5381 号準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号準拠, 第 9072 号準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠, TIA/EIA 568B 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号

項 目	申 請 構 造
防火措置材	<p>充てん材</p> <p>[1] 耐熱シール材 (鋼製ボックス側開口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密度 ・充てん量 高さ 20 以上 ・組成 (構成比) <p>[2] 充てん材 (合成樹脂可とう電線管と壁材との間)</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) 建築用シーリング材 (JIS A 5758) <ul style="list-style-type: none"> イ)、ロ)のうち、いずれか一仕様とする イ) シリコーン系シーリング材 ロ) 変成シリコーン系シーリング材 2) モルタル (中空壁を除く) <ul style="list-style-type: none"> 調合 骨材：セメント：細骨材 (砂、珪砂等) = 1 : 3 (構成比) ・充てん厚 25 以上 <p>(2) なし (RC のみ)</p> <p>[3] 化粧シート (ケーブル側開口塞ぎ用)</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) アクリル系粘着剤付シート <ul style="list-style-type: none"> ・基材 (シート) <ul style="list-style-type: none"> イ)～ロ)のうち、いずれか一仕様とする イ) ポリオレフィン系不織布 ロ) ポリオレフィン系樹脂 ハ) ポリアミド系樹脂 ニ) ポリ塩化ビニル系樹脂 2) アルミガラスクロステープ <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ (シート) 0.55 以下 ・材質 (粘着剤) アクリル系 ・厚さ (粘着剤) 0.5 以下 ・使用寸法 87×87 以下 <p>(2) なし</p>

2) 副構成材料

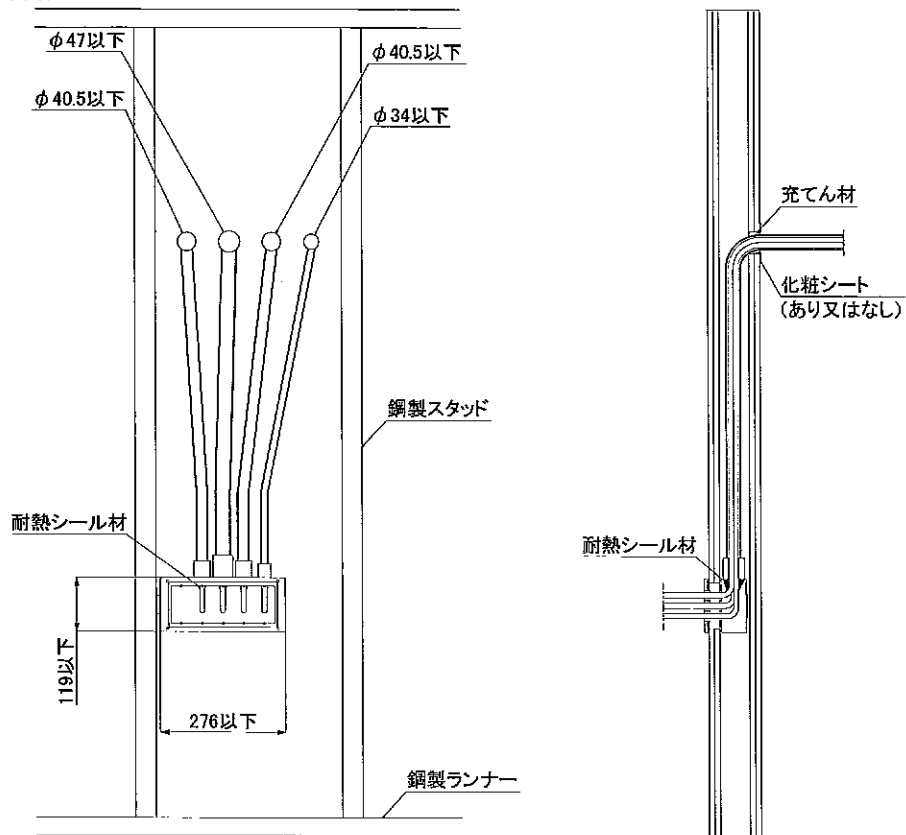
(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
防 火 措 置 材	<p>[1] 鋼製ボックス (アウトレットボックス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 ・寸法 276×119×54 (3～5 個用) 以下 102×102×35 (1、2 個用) 以下 ・厚さ 1.6 以上 ・半抜き穴 ϕ34 以下 (3～5 個用, 14 個以下) ϕ21.8 以下 (1、2 個用, 7 個以下) <p>[2] 塗代カバー</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり (鋼製ボックスが 3～5 個用の場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 ・寸法 276×119 以下 ・厚さ 1.6 以上 <p>(2) なし (鋼製ボックスが 1、2 個用の場合)</p> <p>[3] 端部付属部品</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり (電線管ありの場合)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ABS 系樹脂 ・呼び径 28 (3～5 個用) 以下 16 (1、2 個用) 以下 ・規格 JIS C 8412 <p>(2) なし (電線管なしの場合)</p> <p>[4] ボックス固定金具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 0.8 以上 <p>[5] ケーブル支持材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 ABS 系樹脂 ・寸法 44×23 以下 ・個数 15 (3～5 個用) 以下 6 (1、2 個用) 以下 (但し、[6]のケーブル支持材取付枠 1 個当たり 3 個以下) <p>[6] ケーブル支持材取付枠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材質 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 ・厚さ 1.4 以上 ・個数 5 (3～5 個用) 以下 2 (1、2 個用) 以下

(寸法単位：mm)

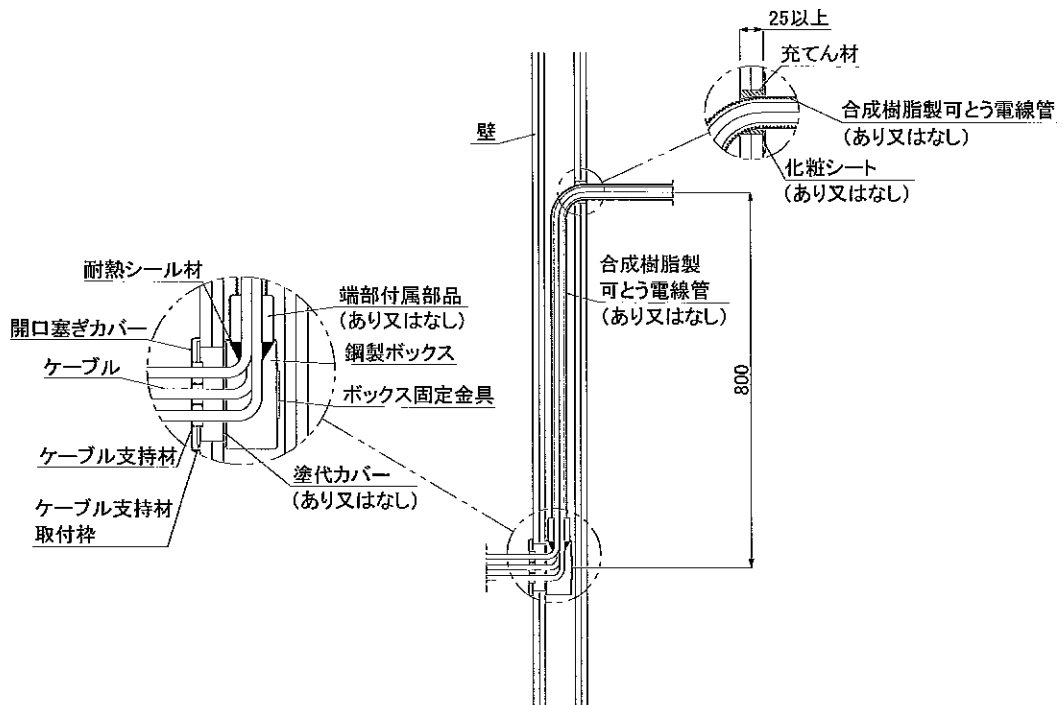
項 目	申 請 構 造
防火措置材	[7] 開口塞ぎカバー (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) ABS系樹脂 ・寸法 254×120 (3～5個用)以下 116×120 (1、2個用)以下 ・厚さ 2.0以下 (2) ステンレス ・寸法 254×120 (3～5個用)以下 116×120 (1、2個用)以下 ・厚さ 2.0以下

4. 構造説明図
(中空壁の場合)



正面図(壁内部)

断面図



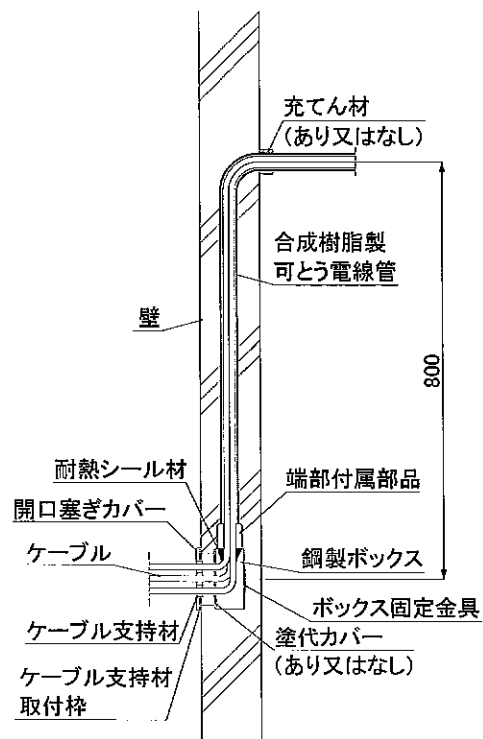
断面詳細図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(別添-7)

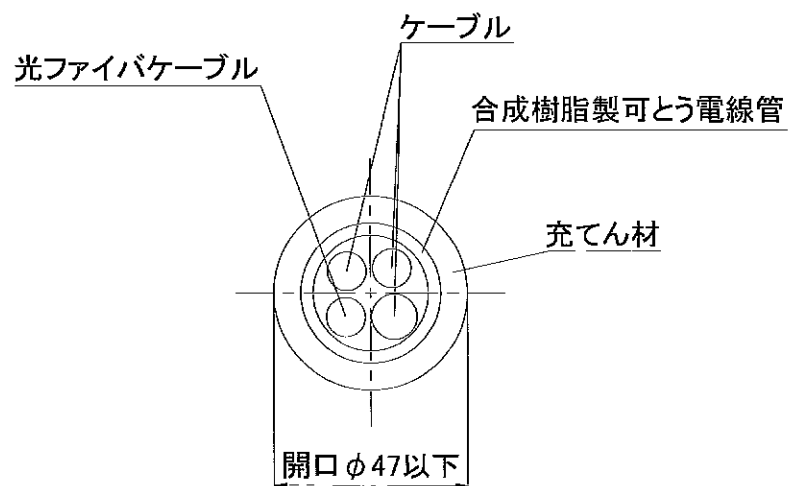
(寸法単位：mm)

(コンクリート壁の場合)



断面詳細図

配管通部詳細

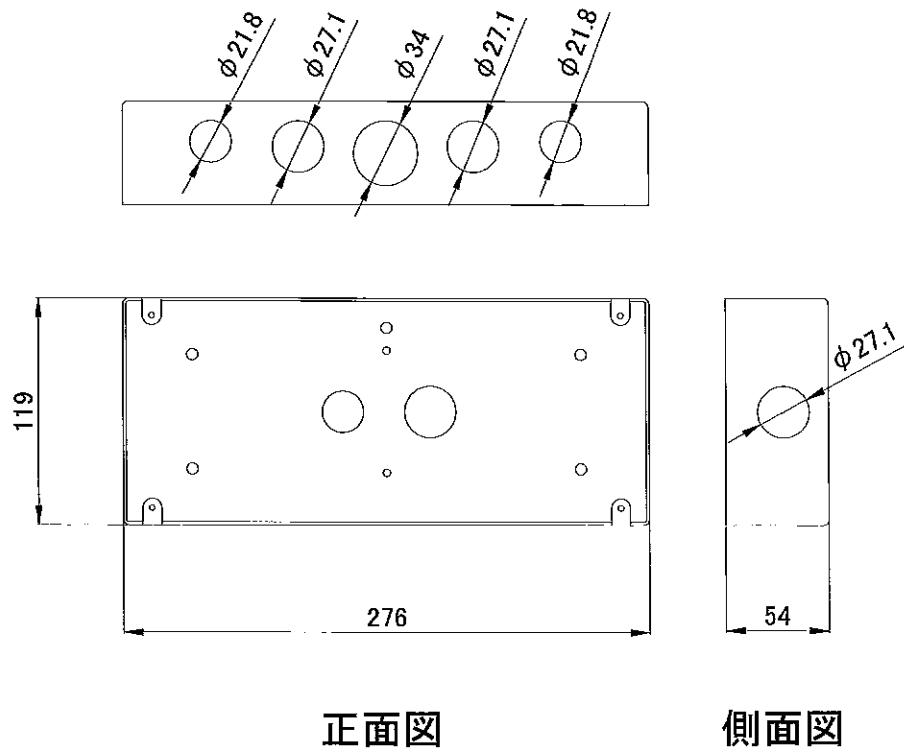


注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

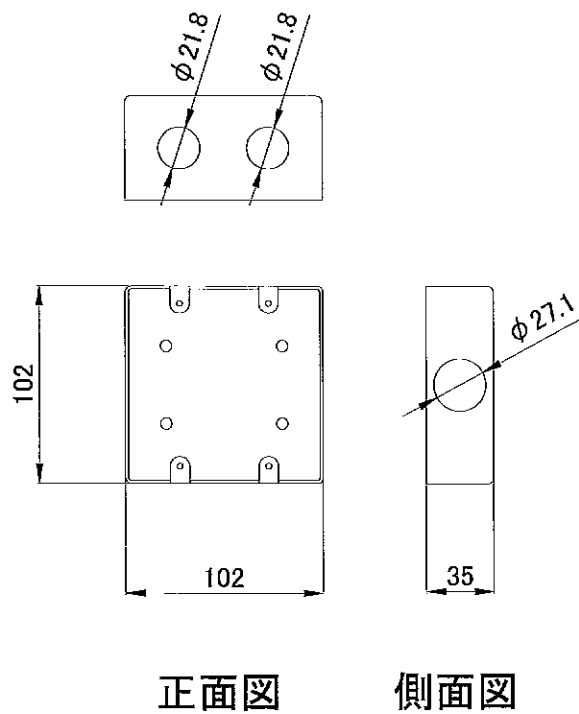
正面図及び側面図例

(寸法単位：mm)

1. 鋼製ボックス (アウトレットボックス)
(5 個用)



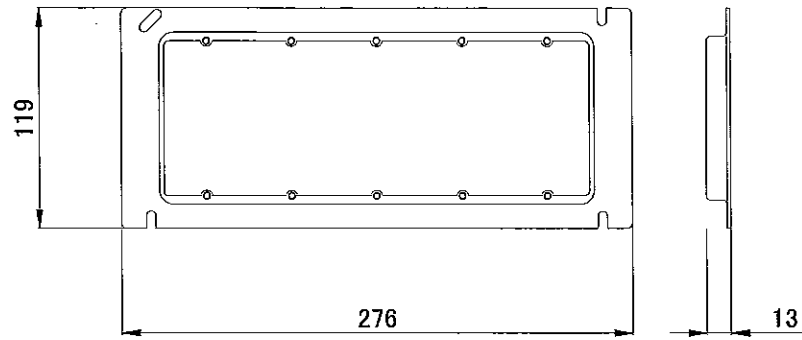
(2 個用)



注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(寸法単位：mm)

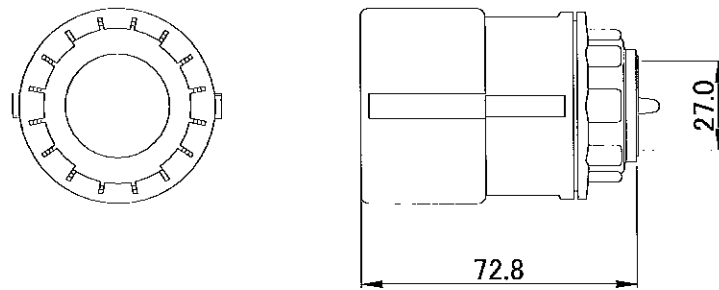
2. 塗代カバー



正面図

側面図

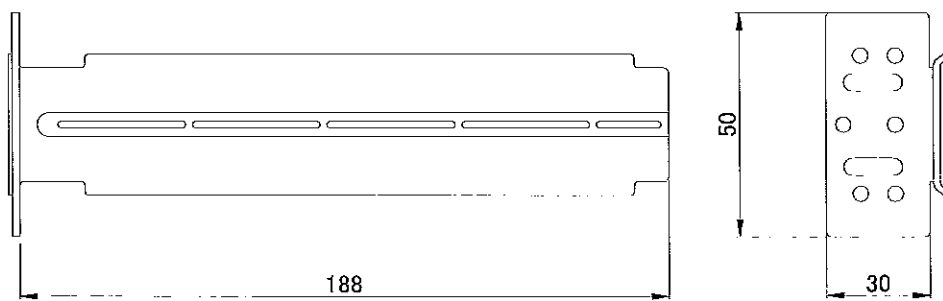
3. 端部付属部品



正面図

側面図

4. ボックス固定金具

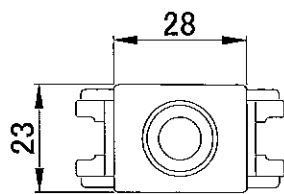


正面図

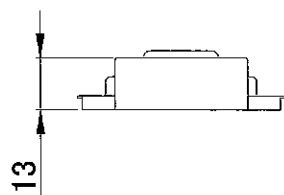
側面図

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

5. ケーブル支持材

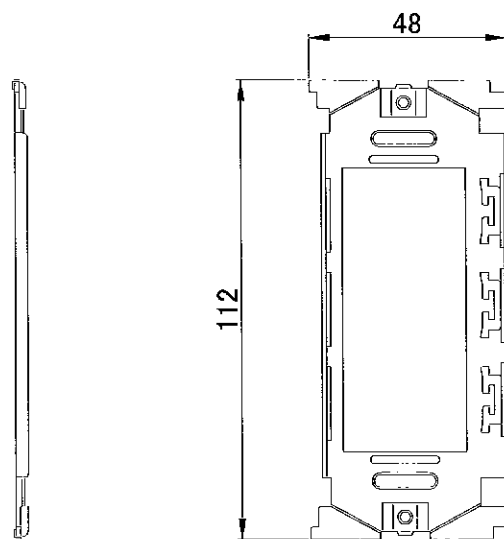


正面図



側面図

6. ケーブル支持材取付枠



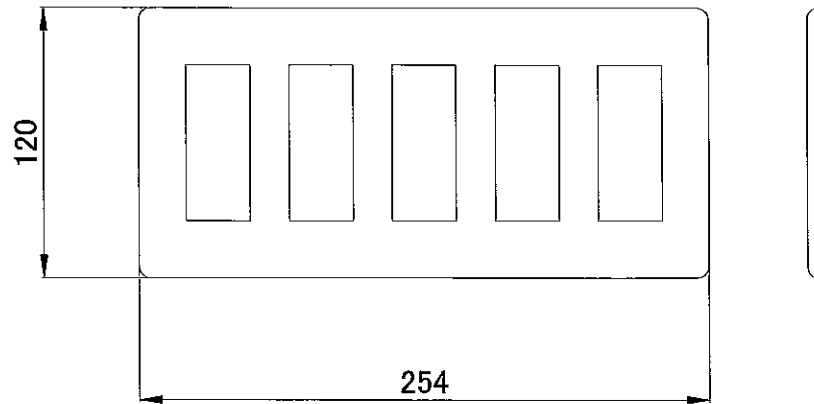
側面図

正面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

(寸法単位：mm)

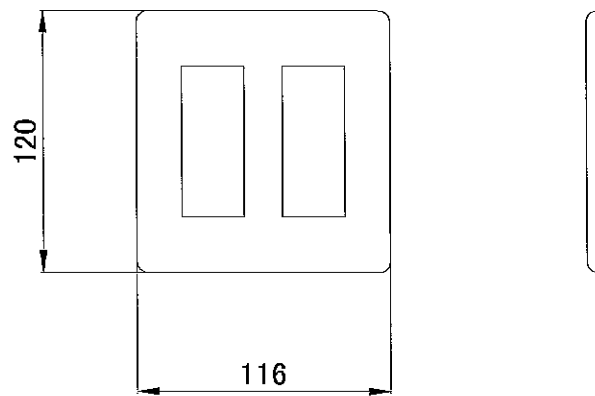
7. 開口塞ぎカバー
(5 個用)



正面図

側面図

(2 個用)



正面図

側面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

5. 施工方法等

〈施工図〉

4. 構造説明図と同じ

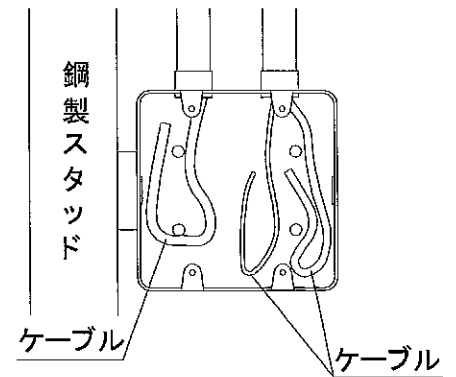
〈施工手順〉(中空壁の場合)

(1) 鋼製ボックスの設置

- ①必ず、鋼製ボックスを用意する。
- ②鋼製ボックスに端部付属品を設置し、配管する。

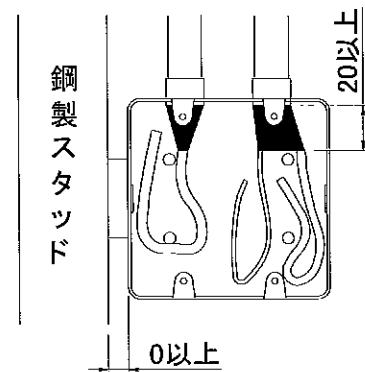
(2) ケーブルの挿入

- ①鋼製ボックス内に引き込むケーブルを全て引き込みます。
右図は一例。

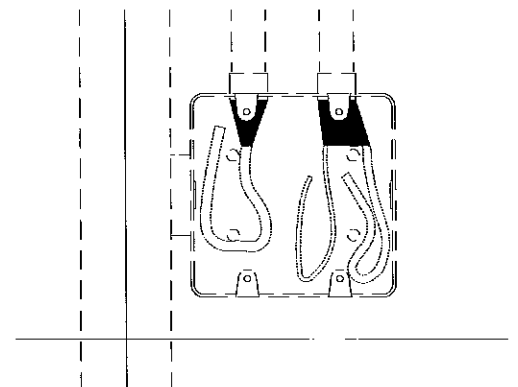


(3) 耐熱シール材の盛り上げ

- ①配線した周囲に耐熱シール材を端部付属品から円錐状に20mm以上盛り上げる。

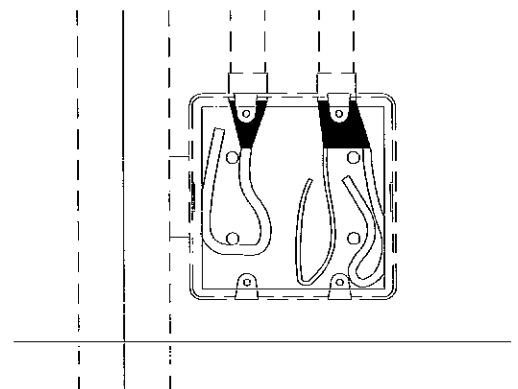


- ②ボードを貼り付ける前に鋼製ボックスの位置が分かるようにマーキング等を行う。



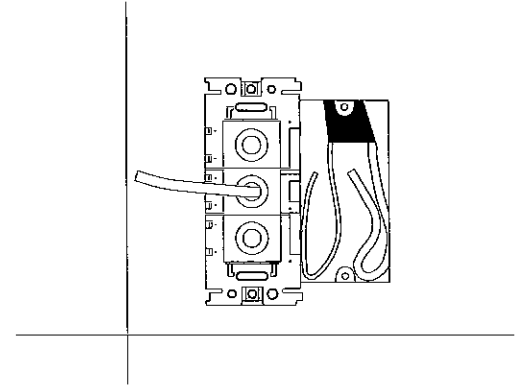
(4) ボードの穴あけ

- ①ボードにケーブル支持材などを取付ける穴を開ける。

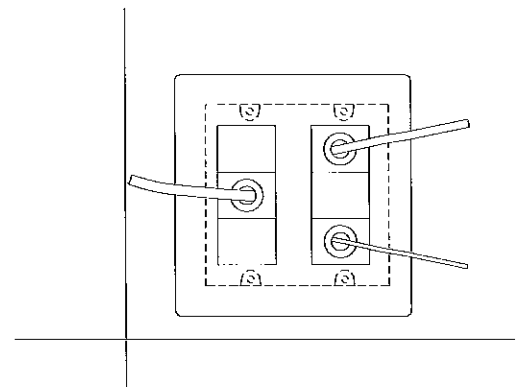


(5) 副鋼製材料の設置

- ①ケーブル支持材、ケーブル支持材取付枠などを取り付ける。



- ②開口塞ぎカバーを付ける。



(6) 建築用シーリング材の充てん

- ①あらかじめ合成樹脂製可とう電線管貫通部に適合する穴を開け、ボードを貼り付ける。
- ②合成樹脂製可とう電線管と開口の隙間に建築用シーリング材を充てんする。
- ③合成樹脂製可とう電線管の建築用シーリング充てん埋戻し部について化粧が必要な場合、合成樹脂製可とう電線管の埋め戻し部を覆うように 87×87 以下のアクリル系粘着付シート等を張りつける。

